

ナシの環境に配慮した栽培技術を推進しています

普及指導部

厚木市内のナシ栽培では、樹勢低下が深刻な問題となっています。

調査の結果、使用していた配合肥料の肥効が十分ではないことが分かり、早急に対策を取る必要が生じました。また、食の安全に対する消費者ニーズへの対応として減農薬化が急務となっていました。

そこで普及指導部では、施肥改善、減農薬化に向けた普及指導活動に積極的に取り組みました。活動では、生産者の協力を得て現地調査ほ場を設け、これまで使用していた配合肥料と新規に作製した有機100%の配合肥料の肥効比較およびフェロモン剤（コンフューザーN）導入とその後の農薬の使用実態調査を行いました。「安全・安心なナシ作りを目指そう。良質の配合肥料を普及し、果実品質を揃えよう。効果的な施肥方法に見直そう。」を合い言葉に、生産者や市・JAと一致団結し、協力しながら推進しました。

その結果、新規の有機100%配合肥料は市内70%のナシほ場に導入され、施肥方法を（表1）のように分肥（基肥を数回に分けて施肥）へと改善することで、樹勢が回復し、果実品質も向上しました（表2）。フェロモン剤も市内の50%のナシほ場に導入され、農薬の使用回数を10%削減できました。

表1 県の施肥基準による標準施肥と分肥による施肥方法について

（単位：施肥量Nkg/10a）

	11月	3月	4月	5月	9月	合計(%)
県基準による標準施肥*	17.4(60.4)			5.0(17.4)	6.4(22.2)	28.8(100)
分肥(新規配合肥料使用)	14.0(50.0)	5.6(20.0)	5.6(20.0)	2.8(10.0)		28.0(100)

*平成19年神奈川県作物別施肥基準より引用

表2 幸水の収穫時の果実肥大と発育枝の生育について

品種	年度	果実肥大		カラー チャート 値	Brix	発育枝		
		横径 mm	縦径 mm			基部径 mm	長さ cm	芽数
幸水	2006年	85.7	65.9	—	—	—	—	—
	2007年	87.3	70.0	4.0	12.6	16.3	129.6	34.5
	2008年	90.3	72.1	4.0	12.8	17.3	126.4	36.2
	2009年	89.3	73.4	3.4	13.1	18.5	132.2	34.0

ほふく

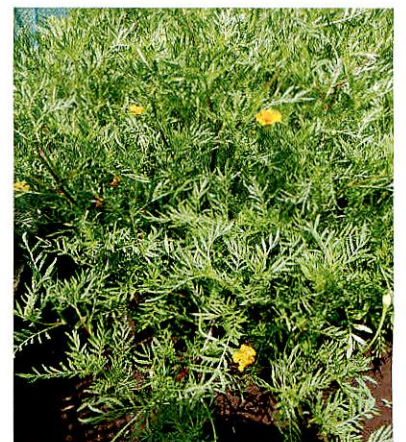
匍匐性マリーゴールドによるキタネグサレセンチュウ対策にとりこんでいます

キタネグサレセンチュウはダイコンの最重要害虫として、その防除には常に多大な労力が払われています。三浦ダイコンにキタネグサレセンチュウの被害が認められるようになったのは昭和20年代末で、その後、現在に至るまで毎年被害は拡大する傾向にあります。

この古くて新しいキタネグサレセンチュウの効果的な防除方法として、当所では昭和60年代初めに対抗植物のマリーゴールド品種‘アフリカントール’を用いる生物的防除技術を確立し、積極的に現地導入されてきました。しかし、雑草やオオタバコガなど後作のダイコンを食害する害虫の被害が増加することやマリーゴールドの育苗や定植、除草などに労力がかかってしまうことなどから、作付け面積が激減してしまいました。

そこで、これらの問題を解決するため、匍匐性マリーゴールド品種である‘グランドコントロール’が利用できないか検討することにしました。‘グランドコントロール’は匍匐（地表面を這いながら生育）するため、雑草が生えにくいので除草作業が軽減できること、花が小さいのでオオタバコガなどの害虫の寄生が少ないことなどの特徴があります。今後、三浦半島での普及を目指して具体的な栽培効果を明らかにしていく予定です。

三浦半島地区事務所



匍匐性のマリーゴールド
‘グランドコントロール’